

立命館経済學

第十一卷 第四号

昭和三十七年十月

内 容

論 説

- 不換銀行券の本質……………小 牧 聖 徳 1
- 石炭危機の本質と石炭調査団の限界……………戸 木 田 嘉 久 16
- 中国国民経済の発展過程(一)……………松 野 昭 二 53
——工・農業関係の発展を中心として——
- イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(二)……………松 田 弘 三 94
——ケムブリッジ大学におけるその近況を中心として——

研 究

- 地域開発と欧州投資銀行……………清 水 真 俊 124

立命館大学経済学会

立命館経済学

第十一卷・第一・二合併号

(遺稿) 差額地代Ⅱ不当価値説

白杉庄一郎

——山田説批判——

経済学研究の出発点にある哲学的課題

——四四年『手稿』におけるマルクス自身の

——思弁哲学についての分析的吟味として——

梯 明秀

いわゆる使用価値の捨象にかんする一考察

——故白杉教授『価値の理論』によせて——

岡崎 栄松

白杉独占理論の構造

——特別剰余価値は独占利潤の源泉でありうるか——

平瀬 巳之吉

『その意欲だにあらばオーストリアは

万国を凌がん』

——ヘルニク研究序説——

出口 勇蔵

ヘーゲル市民社会論とマルクス

細 見 英

アイルランド羊毛工業の抑圧

角 山 栄

——イギリス重商主義論——

生産関係の国家的形態としての

国家独占資本主義について

人口と就業状況

井 汲 卓一
坂 寄 俊 雄

——国勢調査結果による——

立命館経済学

第十一卷・第三号

論 説

経済と政治における自由の展生(一) 高橋 良三

——その史的概観——

経済学研究の出発点にある哲学的課題(承前)

——四四年『手稿』におけるマルクス自身の

——思弁哲学についての分析的吟味として——

梯 明秀

戦後財政整理の性格

加藤 睦夫

イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(一)

——ケムブリッジ大学におけるその近況を

中心として——

松田 弘三

研 究

わが国における割賦販売会計の理論(続)

桑原 幹夫

発行所

立命館大学人文科学研究所